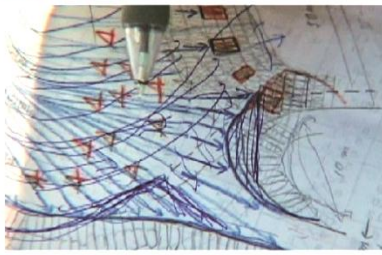
「長期にわたって中村さんに密着した映像は、中村さんとの信頼の証だ。
中村さんは無念の死を遂げたが、この中に生きている」　**上野千鶴子氏**（社会学者、東京大学名誉教授）

矢板文化スポーツ複合施設
令和8年2月8日(日)　13:00受付　/　13:30上映



1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一譲れぬ一線は『現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと』である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒労である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない」荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。

親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。
中村医師は言う「これは人間の仕事である」

2026年2月8日（日）予定　13：00受付/上映13：30

会場：矢板文化スポーツ複合施設　（矢板市末広町４９－１）

申込不要

直接おこしください

参加費：一般1,000円　（高校生以下無料）

上映（47分）後、トーク企画を予定しております

（問）☎0287-43-0424
（受付時間：平日10:00～16:00）

主催：一般社団法人日本社会連帯機構 北関東地方委員会 矢板地区センター
共催：映画『医師中村哲の仕事・働くということ』矢板市映画上映実行委員会
後援：矢板市教育委員会（予定）

WORKERS'COOP